

## コンサルテーション事業報告

事業の名称	学習障害支援事業	事業代表者	川崎 聡大
対 象	学習面やコミュニケーション、発達に課題を抱える就学前児・小中学生		
目 的	<p>【目的】</p> <p>言語、学習、コミュニケーションに関する相談援助を通じて地域に研究知見を還元するとともに、目の前の生活をことばやコミュニケーションといった観点から少しでも有意義にしていくための方策について当事者や学校関係者、保護者たちとともに検討を深める。</p>		
実 施 日 実 施 回 数	相談事例とその内容により概ね1/W～1/2W（相談内容によって回数は異なる）実施概要に詳細を記載する		
実 施 場 所	心理演習室(5F)		
主なスタッフ	<p>川崎聡大</p> <p>*川崎研究室所属学生・研究生・研究員</p> <p>川田 拓（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程）</p> <p>斉藤和香（東北大学教育学部）</p> <p>張 亜倩（東北大学大学院教育学研究科博士前期課程）</p> <p>*10月より 澁谷文恵（東北大学大学院教育学研究科 PD）</p> <p>深見美奈（研究生）</p>		
スタッフの 活動内容 および 実施実績概要	<p>学習面、特に読み書きに困難を示す児童・生徒・学生に対して、読み書き困難の背景を掘り下げ、個々の認知特性に応じた①読み書きに対する直接的な指導・支援②学校生活全般のコンサルテーション③二次障害軽減のための方策の検討等、支援を実践した。当該児童・生徒に対するアプローチだけでなく在籍する小学校や教員への助言、個別指導計画、個別教育支援計画策定への助言指導も実施した。</p> <p>学生スタッフは教員指導の下、スタッフ以下の内容に関わった</p> <p>① 読み書き困難生徒に対する ICT を活用した授業場面への支援（博士後期学生）</p> <p>② 読みや書きの指導に関する指導計画の立案と教材作成（全員）</p> <p>③ 指導や検査の合間の対象児童へのかかわり（全員）</p>		

	<p><b>【実施概要】* 個人が特定できる可能性があるため包括的に記載します</b></p> <p><b>本年度の相談傾向</b></p> <p>本年度はコロナ下であったため、1回目の非常事態宣言が改善され教育相談を開始できる状況が整う9月まではオンライン相談を中心に行った。オンライン相談では昨年度の相談事例のフォローアップ、新規予約の相談、コンサルテーションといったもので学習面の問題4件、言語発達に関する相談を3件受けた（9月一杯）。9月後半以降感染予防対策を講じつつ対面指導を段階的に再開し、11月より対面に移行した。本年度は件数自体が昨年に対し減少したが、一方でオンラインでの教育相談の成果を実感した年であり、今後の展開に新たな可能性を見出した年度であったともいえる。</p> <p>対面再開後の実施件数</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>9月</td> <td>5件</td> <td>（オンライン並行）</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>6件</td> <td>（オンライン並行）</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>6件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>5件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>6件</td> <td>合計 35件</td> </tr> </table>	9月	5件	（オンライン並行）	10月	6件	（オンライン並行）	11月	6件		12月	5件		1月	6件	合計 35件
9月	5件	（オンライン並行）														
10月	6件	（オンライン並行）														
11月	6件															
12月	5件															
1月	6件	合計 35件														